

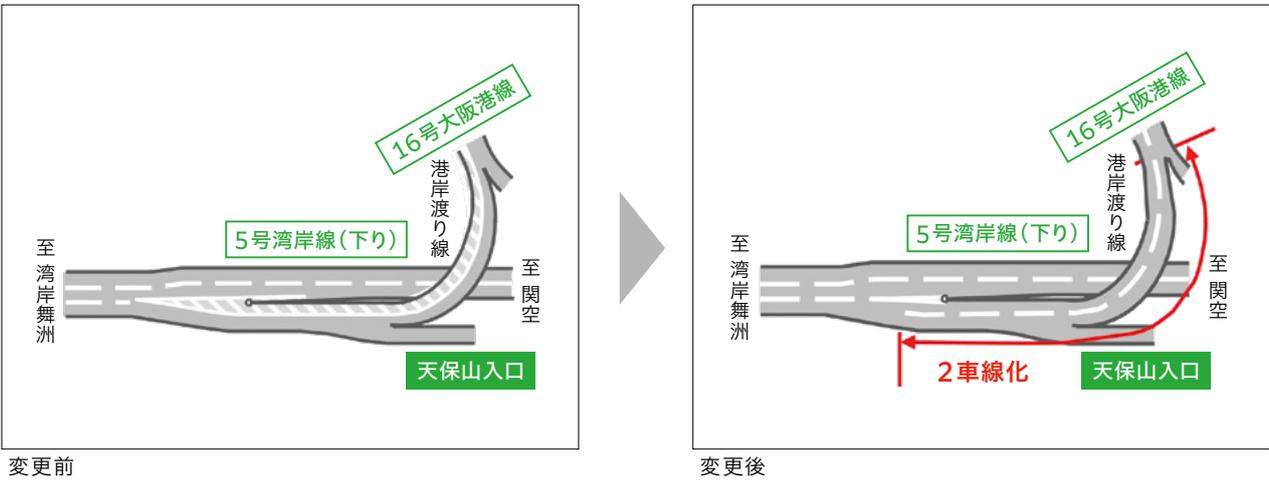
渋滞対策

阪神高速グループでは、阪神高速道路のネットワークの拡充・強化に加えて、拡幅や車線運用の変更、速度回復誘導灯の設置などのボトルネック対策、う回を促すための情報提供の充実や料金施策、工事による渋滞を削減するための工事の集約・短縮などの渋滞対策に取り組んでいます。

車線運用の変更

大阪・関西万博開催期間中の交通需要の増大に対応するため、交通集中が想定される16号大阪港線から5号湾岸線(神戸方面)へ向かう天保山JCT渡り線および湾岸舞洲出口の車線数を1車線から2車線に変更しました。

〈天保山JCT渡り線〉



速度回復誘導灯の設置

勾配が下りから上りへと変化するサグ部では無意識に速度が低下してしまい、ボトルネックとなりがちです。そのような場所において速度回復を促すため、等間隔に設置した点滅灯を一定速度で連続的に点灯させる「速度回復誘導灯」を設置しています。設置区間において、実勢速度に応じた点灯速度で運用することにより、深江付近の渋滞量(渋滞長×継続時間)は約7割削減しました。



速度回復誘導灯(3号神戸線(東行)深江付近)

